

感謝と絆

東日本大震災において被災された方々に心からお見舞い申し上げますとともに、犠牲者の方々には謹んでお悔やみ申し上げます。

地震発生時の3月11日午後2時46分、私は15日の確定申告の期限直前で事務所において作業に追われていました。非常に長い横揺れが続き、当初は疲れで「めまい」が起こっているのかなあと思いましたが、ブラインドが音をたてて揺れているのを見て、これは地震だなあと思いました。インターネットで東北地方を震源とした地震が発生というのを確認すると、東北が震源地なのに大阪市内でこれだけ揺れるとは、これは相当広範囲で大規模な地震であると確信しました。たまたま聞いていたFMラジオでは直後から流れる曲は静かなバラードソングばかりになり、DJもやや抑え気味になりました。

地震の規模はマグニチュード9.0、このエネルギーは16年前に発生した「阪神淡路大震災」のマグニチュード7.3の約1,000倍に相当すると言われています。この地震により東北地方は太平洋側に約4m移動したそうです。押し寄せて来た大津波で流される家屋の映像をテレビで見ていると、私が幼いころ見た小松左京原作のSF映画「日本沈没」とオーバーラップし、とても現実とは思えない衝撃を受けました。1,000年に一度と言われる巨大な自然災害の前にはいくら文明が発達した人類もなすすべもないくらい大きなエネルギーが働き、自然界の恐ろしさをしみじみと感じました。

被害状況については阪神淡路大震災をはるかに超えるような状況です。遠く離れた関西に住む私たちにも、何か出来ることはしてあげたいとの思いをお持ちの方も多いのではないのでしょうか？ 救援物資の個別の送付は、仕分けや保管などが人手不足で非常に大変なので対応が難しいそうです。最寄りの市町村などの団体が救援物資の受付をしているところもあるので、個別には直接送付せずともそういうところに持ち込むようにすればいいでしょう。あと、ボランティアで直接人助けしたい方も、個別に行っても今のところ受け入れ体制が出来ていないので、体制が整ってから所定の手続きを経て行えばいいとのこと。

そうするとやはり、義援金などの寄附が今すぐ万人に出来る善意ではないかと思えます。私も、確定申告の最終日の15日に、顧問先の皆様から頂戴した確定申告の報酬の一部を郵便局の窓口から日本赤十字社に寄附させていただきました。個人や企業が所定の手続きをした義援金には税制上の控除もあるので、なるべくなら税金も考慮した手続きの上で義援金の寄附をしていただき、浮いた税金分もさらに上乘せするつもりで寄附していただければ幸いです。

日々衝撃的な映像を見ていると、気持ちも塞ぎがちになり、被災者の方々のことを思うと普段と変わらぬ自分の生活に対して罪悪感が生じ、行動も自重気味になります。専門家によると、過度に悲観的になる必要はなく、普段と同じように生活すべきとのこと。あまり自粛ムードが広がると消費が抑制され景気に影響し、復興も遅れて悪循環になるとのこと。

阪神淡路大震災のときも言われたことですが、普段の平凡な生活がいかに幸せなことで、多くの人に支えられて生きている自分が居て、又生活が出来る。こういう大災害が起こるたびに思うことですが、普段は日常が当たり前のように思っている自分が居ます。人はどんなに頭が良くてもどんなに地位が高くても一人では生きていけないということを改めて感じます。

海外のメディアからは、被災された皆さんが食料の配給にきちんと列を作って人数分しか受けとらない冷静な行動や、どさくさに紛れた略奪や盗難などの犯罪がほとんどないことなどを称賛する報道を見て、改めて日本人として誇りに思います。一方、悪質な事実と異なる「関西電力で働いている友達からお願い・・・」などのチェーンメールを流して混乱させたり、善意に便乗した義援金詐欺などを行う悪人が居ることも頭の片隅に置いて置く必要があります。

今回の原発事故においては、命がけで懸命に復旧に取り組む現場の作業員の方々がいっぱいます。もちろん、それらの方々にも家族がいることを忘れてはなりません。日々感謝の気持ちと人々の絆の大切さというものをこれからも意識しつつ、一日も早い復興をお祈りします。